

# '92 都市環境デザインモニター・プレメッセ

## 実施結果報告書

1992年7月

財団法人 経済調査会



## は じ め に

都市の環境を少しでもより良いものとしていくために、分野の違いを越えて積極的にこれに関与して行きたいと考える人たちの集まりとして「都市環境デザイン会議」が発足してはや一年が過ぎました。土木、建築、造園、諸デザイン、照明など多岐にわたる分野、また学界、行政界、コンサルタント界、設計事務所界など多くの立場の人々の参加を得て、全国の活動組織として定着しつつあることは、ひとえに皆様方のご理解、ご支援、ご努力によるものと深く感謝を申し上げる次第です。

「都市環境デザイン会議」は、都市環境デザインに深い関心のある人々のネットワークの構築、都市環境デザインの高度化、情報交換などについての活動を活発に行っているところですが、このたびさらに社会的な情報発信の事業の構築に向けて、第一歩を踏み出すことといたしました。すなわち、会議のメンバーが自ら社会的、専門的なモニターとなり、都市環境の開発、素材の供給、技術の開発などに関与される産業界の方々のご協力を得て、双方向型の情報交換の場を「都市環境デザインモニター・プレメッセ」として開催いたしました。

従来、都市環境の設計が分断的であることも影響して、設計側と産業界とは極めて断片的な接触を持つのみでしたが、これを機会に需要側の声、供給側の事情の情報交換をより活発に行っていくことが、よい環境の形成に必須の条件であると考えました。

より豊かな都市の時代に向けての活動の趣旨にご理解を頂き、このたびは積極的なご支援ご協力を賜わり、盛会裡に開催できましたことを心より感謝申し上げます。次第であります。

アンケート集約等が遅れまして、皆様へのご報告が大変遅延いたしましたことを深くお詫び申し上げます。

本報告書は、プレメッセの要旨を取りまとめたものでありますが、ご参考に供していただければ幸甚に存じます。

都市環境デザイン会議



# 目 次

はじめに

1. 都市環境デザインモニター・プレメッセ実施要領	1
2. 経過報告	2
(1) 川崎製鉄(株)・川鉄機材(株)	3
(2) (株)クボタ	3
(3) 清水建設(株)	4
(4) 住友軽金属工業(株)	4
(5) 積水樹脂(株)	5
(6) 大成建設(株)	5
(7) (株)竹中工務店	6
(8) 東京ガス(株)	7
(9) 東芝ライテック(株)	7
3. アンケート集約結果	9
(1) 川崎製鉄(株)・川鉄機材(株)	9
(2) (株)クボタ	11
(3) (株)神戸製鋼所	12
(4) 清水建設(株)	13
(5) 住友軽金属工業(株)	14
(6) 積水樹脂(株)	15
(7) 大成建設(株)	16
(8) (株)竹中工務店	18
(9) 東京ガス(株)	19
(10) 東芝ライテック(株)	20
4. JUDIへの要望・意見	21
5. 事務局の反省と課題	22



# 1. 「都市環境デザインモニター・プレメッセ」 実施要領

## 1. 開催の趣旨

都市環境の形成にかかわる発注者、計画者、設計者、デザイナーがモニター席にならび、これに対し都市環境の開発事例、素材開発、技術開発などについて企業側にプレゼンテーションをしていただきます。その後待ち時間に従って意見交換を行います。とりあえず、試行のための小規模なメッセから発足したいと考えますが、発展の要件を探りつつ、ゆくゆくは広範かつ大規模なもの、また一般の方々の参加を求めるものなどへの拡大を図ってゆくことを目指したいと考えます。

## 2. 開催概要

名 称：'92 都市環境デザインモニター・プレメッセ

会 期：1992年5月23日（土） 11：00～16：30

なお17：00以降、懇談会を用意しております。

会 場：東海クラブ

東京都千代田区霞が関3-2-5 /〒100

T E L . 03 (3581) 0121 代表 T E L . 03 (3581) 1313 直通

主 催 者：都市環境デザイン会議

〒150 東京都渋谷区広尾1-10-4 越山L Kビル（内）

T E L . 03 (5420) 5995

運 営：同 上

事 務 局：都市環境デザインモニター・プレメッセ事務局（財）経済調査会内

T E L . 03 (3543) 8653 F A X . 03 (3542) 0372

対象来場者：各省庁・自治体の都市計画担当者、建設コンサルタント、建築設計事務所、デザイナー、大学教授、ゼネコン、造園業者、資材メーカー

（以上、都市環境デザイン会議のメンバー）

## 3. 出 展 企 業

川崎製鉄(株)、川鉄機材工業(株)、(株)クボタ、(株)神戸製鋼所、清水建設(株)、住友軽金属工業(株)、積水樹脂(株)、大成建設(株)、(株)竹中工務店、東京ガス(株)、東芝ライラック(株) 計10社

## 4. モニター会要領

モニター会はモニター会場（展示コーナーを併設）にて行います。モニター出席者は、省庁、自治体の都市計画、環境デザイン担当者、都市環境関係の大学等の先生方、環境デザインにかかわるコンサルタント、設計事務所の方、フリーデザイナーなど50～70名程度を予定します。モニター会の進行は司会者が進めますが、あらかじめモニターに対する質問事項（評価のポイントなど）を10項目用意していただければ幸と存じます。

発表内容は、都市環境の開発事例、都市環境要素の製品、デザインシステムの提示など自由ですが、なるべく主旨、目的、売り込みたいポイントなどを明瞭に絞ってください。形式は、スライド、ビデオ、パネル、OHP、メモ、パンフレットの配布などが考えられますが、会場に準備するシステムについては、ご要望に従って、後日定めることとします。

なお、パンフレット等では知りえない情報の提供を歓迎します。

## 2. 経 過 報 告

### [ 経 過 ]

「'92 都市環境デザインモニター・プレメッセ」は、都市環境デザイン会議の主催により、事務局(財)経済調査会で、1992年5月23日(土)午前11時45分から、都市環境デザイン会議(略称JUDI)会員約90名のモニター協力をいただき、東海大学校友会館朝日の間で盛会の中に開催された。

同メッセに先立ち、午前10時からJUDIの臨時総会が行われ、予定時間より20分遅れ(実際の開始は12:05)で開始された。

参加企業は10社。川崎製鉄(株)・川鉄機材工業(株)、(株)クボタ、(株)神戸製鋼所、清水建設(株)、住友軽金属工業(株)、積水樹脂(株)、大成建設(株)、(株)竹中工務店、東京ガス(株)、東芝ライテック(株)の各代表が、自社製品及び都市デザインの実績を説明し、それらにモニター側が質問、プレゼン者が応答するという形で、モニター・プレメッセは進められた(株)神戸製鋼所はパネル展示のみで欠席)。

1社あたりの持ち時間が少なかったが、かえってそれが説明を簡略にし、内容を凝縮しているだけあって、初めての試みであるにもかかわらず、モニター・プレメッセは活発な発言の間に幕を閉じた。

午後4時30分からは望星の間に場所を移し、参加企業、JUDI会員、そして関係者約100名が集い、懇親会が行われた。会場ではモニター・プレメッセの延長のように、小さなグループをつくりながら、活発な論議を繰り広げている光景も見受けられ、盛り上がりの中に、午後7時に予定通り全ての行事は終了した。

なお、モニター・プレメッセの内容概略は以下の通り。

### [ 内 容 概 略 ]

総合司会	国 富 朝 雄	(財)経済調査会)
司会(進行)	鳴 海 邦 碩	(大阪大学工学部助教授)
	中 野 恒 明	(株)アプル総合計画事務所)
趣旨説明	南 條 道 昌	(株)都市計画設計研究所)
閉会挨拶	曾 根 幸 一	(株)曾根幸一・環境設計事務所)

都市環境デザインモニター・プレメッセは、南條氏の今次メッセの趣旨説明によって始まった。

南 條 氏 = 都市環境デザイン会議(以下JUDI)にとって、今回のプレメ



ッセは初めての試みである。J U D I の活動の一環として、本プレメッセを運動体として捉え、このような会を開催することによって、社会的なつながりを深めたい。

情報には、①形式情報と、②意味情報があり、①は、メディアを通してメーカー側の製品アピールを狙うが、その意図は消費者には分かりにくい。また①は、数字に置き換えることができるが、②については心理的要素が多く把握しにくい。私たちは②に重点を置き、メーカーとエンドユーザーとの間に立って、私たちの専門的な知識を生かしたい。アナウンス効果の狙いもあるが、今回のこの活動を通じて、J U D I の事業として成功させたい。ご協力をお願いします。

川崎製鉄(株) = ユニット式、立体駐車場K P パークを展示。

川鉄機材(株) 1層2段自走式自動車車庫をメインに、今後販売促進に力を入れていきたい。従来のコストよりも $\frac{1}{4}$ 程度、1台当り50万円前後の負担で設置が可能とのこと。

J U D I = 収容能力とコスト面から見れば大いに評価できる。しかし、立体駐車場といえども、景観との関係で、ゴツゴツした感じを受ける。景観に配慮し、駐車場全体を外部景観に溶けこむような、全面を覆う工夫はできないものか。

また、夜間の出入りに際して、車のライトを外部にもれないような工夫はないか。

J U D I の活発な質問に続いて、メーカーが準備したポイント事項に対して、番号札をかざして効果を測った。

(株)クボタ = 水景観施設をパネル展示。

噴水をテーマに、水の景観事例をとり上げて、うるおい性と快適性を説明。水質汚濁が問題になっている今日、水質保全のために、例えば水流や風のエネルギーを有効利用して噴水化して、川の清浄化を図る。水の生命力、輝き、さわやかさを、水景観施設に利用し、環境と景観保全の一石二鳥を図りたい。

事例として、幕張メッセモール、東京・江戸川区公園のモニュメント、千葉・柏の葉公園噴水、岡崎・音羽河川等の噴水をスライドで説明。

J U D I = 企業としての社会的PRか。デザインを強調しているのか。

水の性質を活用した噴水の利用法はないか。例えば光の屈折を利用したもの。雪積寒冷地における噴水の工夫はないか。パッキシステムの資料などはあるのか。あれば提供してもらいたい。

**清水建設株式会社** = 片面吊り橋りょうを中心に展示。

昨年よりシビック・システム・プロジェクトを13名で結成し、活動している。求めているのは、装飾にたよらず構造そのものがデザインイメージを形成でき、心の領域に訴え、感動をもたらす、そういう形を念頭において研究している。事例として、練馬区の橋りょうのデザインコンペで採用された橋りょう、大学キャンパス内のスロープデザイン等。既存技術の新しい組み合わせで、苦悩しながら実現させている。計画案として、米・ラッカチャッキ橋や回り道の橋、アルトミュール川の曲線吊り橋、ローズウッドゴルフクラブの片面吊り歩道、ビッグバンアイランド構想等をスライド、ビデオで説明。

J U D I = 質問の時間がなく、ポイント事項に対して、①～③の番号札を上げて賛否を問う。

(イ) 構造計画に共感を覚えるか。→大多数の賛成

(ロ) 美的に優れているか。→大多数の賛成

**住友軽金属工業株式会社** = ニューアーバンファニチャーを中心に展示。

ストリートファニチャー関係の作品を見て評価してほしい。メーカーとして古くからアルミのガードレール、照明ポール等の単品を作っていた。メーカーとしての立場をどこにおくかが課題。現在、プロデューサー、あるいはデザイナーをパートナーにして、技術支援できればよいと考えている。

事例として、筑波中央交通広場、幕張メッセ道路照明、多摩・南大沢駅前広場、火の橋（CGによるシミュレーション）。

課題として、メンテナンスをどう考えたらいいのか、あるいはどう取り組むべきかという問題が残されている。金属技術をベースにした商品化を目ざしている。

J U D I = デザイナーをパートナーとして考えておられることは、立派な方針だと思う。公共発注システムについて、設計と製作は同一メーカーに依頼されるのは考えにくい。その点についてどう考えているか。例えば、製品が売ればデザイン料はいりません、という話もかなり聞いている。そうではないよう要望したい。日本の中の見えないカラクリがあり、一建築デザイナーとして、例えばメーカーさんに技術アドバイスを伺いに行った場合、その相談に対して、メーカーサイドか、どっかでイニシアチブをとるような線引きをしているようだ。そのような隠れた利害のニュアンスが伝わってくる。これは住軽金さんだけ

の話ではないが、こういったカラクリが、デザイナーとして不安で恐い話だ。純粹に技術的な相談ができるのか。

**住 軽 金** = 技術サービスの考え方は、メーカーの底流に流れている。安心して相談してほしい。

**積水樹脂(株)** = 大阪・枚方市の天津橋の橋梁全体を、天の川をイメージした曲線デザインで仕上げる。そのパネルの展示。

七夕伝説をモチーフにした橋上空間を演出。同地は七夕にまつわる史跡が数多く残されており、それをキーワードとして橋上文化を築き上げることができればとの思いで製作。

J U D I = 橋の全体構造がわからない。全体のイメージがなければ今回展示のデザインについて議論ができないのではないかと。デザインという言葉が歪曲されて使われているのではないかと。橋全体のデザインが一体となってはじめて評価されるのではないかと。部分的に採り上げられたものをデザイン性として評価するのは困難。さらに、最近、デザイン上における物語の意図性、物語性とかいう抽象的な言葉が多く用いられている。その意味の延長で考えるなら、天の川をイメージしたというのであるが、やはり一番美しいのは自然なものである。それを形に置き換えるというのは、ややもすると稚拙に感じられる。例えば七夕についてイメージするなら、七夕にまつわる物語を単に受け継いでイメージ化するのではなく、七夕の新しい物語をつけ加えるという意気込みで挑戦してもらいたい。

**大成建設(株)** = 緑と風と水の都市づくりをテーマに展示。

緑と風と水は都市インフラとして考えている。例えば、地下水のかん養のシステムづくりができれば、水の多目的利用ができるのではないかと。これらの要素を踏まえ、運動論として展開していきたい。一般に都市インフラといっても、明治以来、欧米の移入が多い。しかし、いずれにしても自然といかに共生するかがテーマとはなっている。東京の現実を考えるなら、夏は排熱等により湿度が高く暑い、冬は湿度50%を割る、いわゆる砂漠化現象が起きる。いわゆるエコシステムが壊されてきている。これをエゴシステムと言ってもいいと思う。

高密度都市において、どう自然と共生するか、あるいは自然を包みこむことができるか、というのが私たちのテーマでもある。自然には三つのことが言える。一つは自然本体、二つには表層的自然（つけまつ毛のような）、三つ目には反自然が考えられる。これらの要素から

も、日本の気象条件を生かし、どう自然と共生できるかを共通認識として考え、いかに快適な都市をつくっていくかがこれからの大きなテーマといえる。エコロジカル・インフラストラクチャーを今後展開していきたい。

J U D I =われわれにどういう意味を求めているのか、いまひとつわからない。しかし、エコ・インフラについての考え方には大いに賛成。今回提案された問題は、われわれにも共通する都市環境デザインとして大きく捉えることができるだろう。

個人的に関心を寄せている問題を上手くまとめていただいた気がする。感想を述べたいのは、今回の提案に対して、個々の技術的な問題をどう社会システムとして発展させていくかということである。その点で、もしわれわれがお役に立てればありがたい。

**(株)竹中工務店** =横浜・イセザキモール、日比谷シャンテ等を中心に街路のデザインを展示。

建築が中心なので、都市環境デザインを含めた公共性のあるものは実績が少ない。ただ「道路は文化を創造する」ことをテーマに取り組んでいる。今日の道路を見まわすと、標識や看板が不統一に掲示されているために、道路デザインを悪くしているのではないか。今後、土木デザイン、都市デザイン分野に積極的に進出し、追求していきたい。

J U D I =敷地内での空間と公共空間が上手くマッチしない。民地の中に公共空間をつくり、建物の設計をするという、竹中工務店の提案を今後、受け入れていかなければならない。それと、大成建設の提案にもいえることだが、今まで都市の道路は自動車交通の必要性からつくられてきた。しかし、今後道路のつくり方も変わろうとしている。公共空間の約80%は道路や街路である。緑と風と水を考える場合、公共空間に多い空間論から道や街路のネットワークを考えていかなければいけない。実際どうすべきか、街路はどう変わるべきかとの提案を、メーカーさんの方からいただきたい。

道は文化をつくる。オープンスペースが文化をつくるということは私たちも考えている。メーカーさんと一緒に提案づくりができればいい。

公共設計と民間設計が一体となった都市デザインはなかなかできにくい。そのプロセスの資料があれば見せていただきたい。

**東京ガス(株)** = 都市を彩るガスアートを展示。

都市空間におけるガス燈ろうの環境演出の提案。ガスアートとして多目的に利用できる。都市に新しい表情を演出できる。ガスの燃焼技術を中心にしながら、あくまでガスアートのデザインを補佐する。現在、1500カ所にガスアートが利用されている。燃える炎を一つのモチーフとして、都市生活に潤いを与えたい。

J U D I = 都市の中でタキ火がしにくくなった。ガスの炎を中心にして人が集まるような創造工夫はできないか。ガスアートという炎の照明以外に……。もちろん安全性については技術的にクリアされていると思うが。

ガス燈のやわらかい光を導入したいと思っている人も多いが、屋外で照明として利用されるには、電球との光源の問題でまだまだ研究される必要があるのではないか。

昔のガス燈のイメージにこだわらずこれからのガス燈はこうだ、という提案をしていただければありがたい。

**東芝ライテック(株)** = メーカーのデザイナーの立場からお話したい。

- ① 環境整備のデザインにおけるメーカーの支援
- ② 照明ばかりでなく全体の提案。例えばストリートファニチャーとしての照明の位置付け。
- ③ ライトアップの手法の提案

以上3点が照明デザイナーの役割と感じている。今回の展示のモチーフは、アーバンアクティビティ（人間の行動行為）と、環境キャプタリの視点から照明をとらえたい。これは単にハードの側面、いわゆるスタイリングデザインとして照明を考えているのではなく、人間の動作の中に照明があり、環境全体の中での照明の位置付けが必要ではないかと思う。

最後に、照明デザイナーとしてこれまで感じてきたことは、照明はいつも施設が完成してから導入される例が多い。

デザイナーとしては、施設全体がどういう発想のもとに計画され、建設されるのか、その川上の様子がわからない。その意味ではデザイナーとして欲求不満に陥っている。先生方皆さんは、都市デザインに関して、計画段階から参加されていらっしゃると思う。私たち照明デザイナーも計画当初から参加できる仕組みをこれから考えていきたい。

J U D I      =メーカーは基本的には工業生産活動というマスプロを前提として持っている。それに対して、景観とか環境というものは個別性が高い。それとどういふふう整合性をとるのか、重要な問題だと思う。メーカーの照明器具には、デザイナーの個性が入り込んで選ぶ側からすれば、逆に使いにくいという面がある。標準品はむしろ単々としたもの、いわゆる素材に徹したのを作してほしい。



開会の挨拶をする南條氏



熱心に論議するモニター諸氏



展示物に見入るモニター諸氏

### 3. アンケート集約結果

#### 1. 川崎製鉄(株) 川鉄機材工業(株)

◎都市化の進展のなかで駐車場は大きな課題である。

設置にあたっては、経済性（安いこと）が重みを持つが、景観性もしだいに重みを増していくことが予測される。

違和感のないパッケージの方法が当面の課題のような気がします。

◎デザインパネルなどで化粧しても限界あり。メーカーとしては自社製品だけで完結したいところであろうが、駐車場敷地外周に中高木植樹や足元植栽などにより、自然素材で修景する等、造園、建設、建築事務所等とのタイアップにより、景観的にも環境的にもすぐれた立体駐車場を望みます。

◎今の時代は、売れば良いというものではない。しかも、特定少数のオーナーの利益 > 駐車場利用者の利便性（利益） > 周辺居住者の利益という関係の中で、いかに公共性を追求するかが課題。

◎この様な駐車場システムは日本においては、避けられない選択だろう。

ただし、中途半端なデザイン化は疑問が多い。

◎自分の家の隣りにこの様なものが出来たら、やはり不快であろう。

問題なのは都市計画全体の中で、その様な問題を起こさないですむ土地利用計画があるべきなのだろう。

◎その上でこのようなシステムをデザイン化するとすれば、たぶん、より簡素で単純なもの、そしてまた、周辺の余地における修景の問題を追求すべきであろう。

◎参考までに、以前道路の沿道景観を調査したが、古タイヤ、ポンコツ車等の集積は美しい積み方を考えても無駄で、いかに見えない様に緑化を施すかという結論に至った。仮設的なものに付加物をつけてデザイン化を行なわなければならないところに日本の都市がかかえる大きな問題があろう。

◎悩み多い課題に挑んでいる。簡便さもよい。

◎出来るだけクルマが見えないようにする。 骨型→壁パネル取付け

◎色彩はダークグレーなどにする。（N-4程度）

◎外周緑化（プラントボックスではなく）大規模。

◎安いのは一番だが、景観コストは必須ゆえ努力すること。

◎2F目隠しと併せた1Fを囲むパネルが欲しい。

→環境壁（パネル）として修景に留意が欲しい。

→格子状ネット等もありうる？（orパンチングメタル）

- ◎ストライプ等の色彩が生々しすぎる。(アクセントカラー)
- ◎道路側を別用途にあてる工夫。
- ◎目隠し部分を2階部分とデザインを合わせ、1階部分にも取り付ける必要がある。歩行者、人の目線レベルでのデザインが重要である。  
コスト上の問題があるが、2F以上の目隠しにかかる費用を減じてもやる必要がある。  
さらに、周囲に植栽を施すこともあり得る。
- ◎本製品で最も良いと思った点は、土地の一時利用が可、つまり、あとから、また別な用途に使いたい場合に、また移動できるということです。  
とりあえず………という発想はなかなか良いことですが、これまであまり評価されなかった点ではないでしょうか。鉄という一度つくったらなかなか………というイメージが強いものの中で、仮設的なものも悪くない。ただし、それが名目だけになり、仮設が常設となってしまう場合には、デザイン上もう少し工夫が必要なはず。
- ◎車は、1台、即ち単体のデザインは素晴らしい。ところが複数すなわち何台も並んで来るとみにくいものとなる。という面白い特徴がある。  
駐車場が景観的に問題なのはそこにある。この駐車場は安くてよいが、景観的に車をかくしながら、駐車場本体のデザインを人に見せることになる。都市中の「建築」として位置づけられるとすれば、ファサードを重視しなければならない。  
今のところ骨だけ、または骨と皮だけの感があり、皮下脂肪や筋肉がみえないので体付きになっていない。  
デザイナーに費用を払い設計案を出してもらう方法をとったらいかがですか。
- ◎プレハブ駐車場外装について
  - 色彩計画の考え方をしっかりと進めて欲しい。
  - 緑でおおう、緑の壁をつくる。  
駐車場とは、本来景観上は余計なものであるが、大きなスペースをとる車を逆利用して、積極的に都市景観に参加することを考えて欲しい。
- ◎元来が仮設的な施設なので、デザイン面での改良の余地は小さいと思う。
- ◎1層2段で(平面に比べて)2倍、2層3段で3倍の容量を確保(1.7倍とか2.7倍などでよしとすべきだろう。)できると考えてはならない。容量が増大するメリットとバランスのとれた景観費用を支払うように(行政が)指導すべきである。  
例えば、周囲3~5m幅の修景帯を義務づける。



## 2. (株) クボタ

- ◎自然のエネルギーを利用した水質浄化など装飾的より環境保全的な方向が望まれます。
- ◎芸術を中心とした活動ではなく、環境面を中心に水の施設を活用してほしい。
- ◎行政などのクライアント向けPRだけでなく、計画・設計者が活用しやすい技術的マニュアル、性能資料等を多く作ってほしい。
- ◎メンテ・エネルギー問題がこれからは重要、低ランニングコストの追求を期待したい。
- ◎水晶橋のように、橋本体の美しい構造体を水で演出するのはデザイナーorコーディネーターの失敗だと思う。メーカーとしても良識ある水の活用方法を忠告すべきである。
- ◎噴水設備の環境に与える影響を的確に捉え、水景施設へ応用するという類のないメーカー提案であると思う。モニターの提言とお願いどおり、そうした知識を一般の人達も理解でき、計画者も正確なデータを使用できるようメーカー側の努力を望みます。  
残る問題としては、水源の問題、冬季の問題、維持管理の問題であるが、これはメーカーだけというより、発注者、計画者も入れて議論していくべき問題である。現状で汚れた浮浪者のたまり場となっている水景施設も多く、そうしたものが今後のブレーキとならないよう、注意する必要がある。
- ◎水の噴出は誰でも望む。
- ◎多様性に挑戦
- ◎施設中心的（エネルギー大量使用）ポンプ屋的
- ◎幼児的興味中心型（大人の鑑賞のレベルから遠い）
- ◎水の造景に傾斜しすぎているのではないか。
- ◎より全体的な景観の構成の中で位置づけるべき  
道頓堀、水晶橋、寒河江なんかは良いのでは……………
- ◎ローマ郊外チボリ（エステ）のような水のデザイン
- ◎水の造景の中で噴水は異常な水のあり様である。  
（水は高さから低きにつく）  
このことに心しないと、デザイン過剰になる。  
都市環境デザインに共通する状況といえる。
- ◎水中内の光の屈折現象を活用するなど、光と組み合わせた噴水を考えるべき。  
人はどんどん夜間に動くようになってきている。
- ◎112と噴水とは無関係と思う。

- 積雪寒冷地の冬季間で、氷の彫刻になるような工夫も考えるべき。
- 水質浄化の機能は高く評価しますが（下から水が出てるところ）道頓堀の噴水を見たときは、特に正直言って少々「気持ちが悪い」という気がしました。なぜかを自問しましたところやはり都市の中心でもあの川には、自然の川（それが堀であっても……）神田川も同じで都市の人にとっては、貴重な人工自然環境下として、自然の川の前風景と重ねているのだと思います。ですから、そういうところで噴水の演出をすると噴水全体に対する拒否反応にもつながってしまうのではないかと心配です。（また、あまり色をつけないほうがよい）  
それに対して、プレイパークor公園のようなところの池では、噴水演出にふさわしい空間と言えましょう。今後やる場所とそこにふさわしいやり方をよく選び、さらに検討すると、もっと発展するでしょう。
- 将来に向けての展望で述べていることは大変素晴らしく賛同します。  
（エネルギー源の節約、気象の調節を含めた環境調節システム作り）  
本日の発表は、①企業としての社会的仕事のPRか、②デザインを強調されているのか、③技術を紹介されているのかよくわからなかった。  
私も水のデザインをよく考えますので、今後、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。
- ハイテク利用の人工的な水ではなく、土や砂とも共存できるローテックな水が欲しい。
- 水晶橋の装置類（パイプ等）は余りにも見苦しい。
- 自然の中の噴水（河川・湖沼）のデザイン、製作は都市内のやり方と違って然るべきだと思います。  
工夫が感じられた。
- OHPの将来展望はその通りであろう。

### 3. (株) 神戸製鋼所

- デザインの研究をさらに続けてほしい。
- 最も興味があるプレゼンテーションだったが、話しがきけなくてまことに残念。  
高齢化や道路と車など都市問題は逼迫したものがあるが、“スカイレール”はその救世主となれるか？
  - 経済性について、どのような試算がなされているか。
  - 路線の位置は公道上、民地内、どのようなところが想定されているか。
  - ループ的な路線設定が基本か、ネットワーク的な路線設定が可能か。

- 地形変化に対する許容度は。
- 景観面での問題。
- など今後かなり突っ込んだ議論が必要と思う。
- ◎大いに関心があるが、運輸省や建設省に対してはどのような対応になるのか。
- ◎わが国で実用されているか。

#### 4. 清水建設(株)

- ◎景観・環境の目標を明確にして、構造物の形態を追求することは重要である。  
機能主義ではない新しい世界があるのかも知れない。
- ◎御社の姿勢を今後とも続けて行ってほしい。
- ◎なお、土木では、構造デザインがカリスマ化されているが、もちろん、構造が中心であることはいままでのもの、ヒューマンスケールの確保や周辺建築との調和のためにも、厚化粧でないデザインを追求してほしい。また、古来からなされていた土木家、建築家、芸術家等との協調になるシビックデザインの実現がなされることが、真のシビックデザインといえよう。  
(土木の中であまりとじないでほしい)
- ◎大変な労作、まじめによくぞ取り組んでいるなどと思う。  
社内でもさぞ風当たりが強かったろうと思われる。が、事の本質をわきまえて  
いる仕事はすぐに次代の潮流になるだろう。
- ◎土木がCIVIC DESIGNの質を言い出したことは評価
- ◎橋梁構造のORIGINALITYへの精進さ。  
そして、それを実現させるために体制許可、施工の環境づくりを
- ◎大いにガンバってほしい。
- ◎人工島は？ 自然は自然のままがもっともよい。
- ◎いずれも非常に美しいもので関心できるが、示されたような形を選択する必然性はそれぞれ充分あるか。  
例えば、何故、曲線にする必要があるか。また、なぜ、吊り橋にする必然性があるか等。  
装飾によらない機能美を狙いとしている以上、この点は特に重要である。形の  
(基本的な形)の面白さが先にあるように思える。そうであるなら形を選択する時に既に装飾をやっていることになる。
- ◎現実性、美的、公共性、etc から考え、一番すぐれていると思いましたが、  
《まわりながらの橋》です。いずれにせよ構造＝デザインというコンセプト、

まさにデザイン本質としてあるべき姿，大賛成です。

◎なかなかユニークな事例発表だったと思います。

時間がなくなったのが残念ですが，是非実現して欲しいものです。

◎曲線PC片面吊斜張橋

おもしろい。

タワーの形状にもっとデザインのバリエーションが欲しい。

◎内容，プレゼンテーション共によい。

## 5. 住友軽金属工業(株)

◎その意味で貴重な素材（資源）なので，的確な使用が望まれる。

メーカーとして，設計者や施主にも意見をハッキリ言う方がよいと思います。

◎設計者を明確にしてほしい。優れた材料も使われ方によっては，良くも悪くもなるから，カタログの中で並列的にならべない配慮が必要。

（優秀な建築家，デザイナーが全て良い作品を作るとは限らないことに注意）

◎既成品のデザインの場合，目立たず，デザインしすぎない落ちついたデザイン，周辺建物や環境に違和感のないデザインが少ない。特に橋梁高欄や一般フェンスに少ないので，シンプルデザインの開発を期待したい。

◎最近，ステンレスやアルミその他の金属によるファニチャーが数多く作られ設置されているが，各々本当にその金属の本質が活かされて作られたものなのか，かなり疑問なものが多い。また，ただ耐久性があるからということでファニチャー類が金属化しているのはどうか？

個人的には時間の経過が刻まれているもの，朽ちていくものがファニチャー類には求められるような気がしはじめているがどうだろう。

◎デザインは他人

素材，部品メーカーなのだから新素材，新技術の紹介（努力）がほしい

◎アルミのスペースフレーム ——

アメリカから導入というのが，いかにもさびしい。

◎ Urban Furnitureとしての利用価値はなお広く期待できよう。ただし，部材が太くなること，ジョイント部等が武骨になること等問題がある。

◎都市において建物の窓の表情が重要である。

住宅サッシのデザインの改善が必要。

◎全般的にデザインが重いものが多い。

◎優れたDesignを登用すべき。

- ◎ Designer が Design の過程で技術的な相談をするような場合、相談料をキチンと取るべき。Design 料もキチンと払うべき。Designer は Design 料を発注者からもらっている。
- ◎設計が他社で施工が貴社なのか。設計+施工なのかよくわかりませんでした。施工だけなら設計は誰れという必要があります。
- ◎アルミに興味があります。是非ご指導下さい。
- ◎技術的な相談をしたとき相談料をとるというということもあり得るのではないのでしょうか。無料奉仕ではなく。
- ◎技術相談をサービスでやるのは問題あると思う。
- ◎火の橋のような遊びすぎの、装飾的なデザインは公共施設としてはよくないと思う。

## 6. 積水樹脂(株)

- ◎多様性、自由性、豊かな素材なので、施主やデザイナーの資質が重みを持つ。的確なコンセプトを定めることが重要だと思います。
- ◎外部のデザイナー（トータルデザインのできる人に限る）との協調により、本来のデザインのあり方などを勉強され、今後実績を積まれることを期待します。
- ◎部位ごとに良くデザインしても、集合させるとバランスがとれず逆に良くないものができてしまいます。全体のトータルデザインを考えることを軸に、各部のデザインに心がけて下さい。
- ◎大阪という地域性を活かし、オールジャパンのデザインでない個性化もあると思います。
- ◎新素材を軸にした景観事業が多くなっているが、本当の意味でのコンセプトは大丈夫なのだろうかという問いかけをしたい。
- ◎樹脂コーティング技術の長所、短所等の広報の方が大切。その方が「売り込み」として成功した。  
天津橋のデザインそのものは平均点で、わざわざ発表する必要はなかった。
- ◎テーマについては与えられたもので止むを得ないとは思いますが、デザイン表現として二次的なので、まあ許容できる。
- ◎高欄の重厚感は評価できる。—— すなわちごく標準的レベルにあるという意味で。
- ◎天の川をテーマにするなら賛否両論あろうが、親柱を織姫、牽牛 …… にしてしまう、つまりキッチュなデザインも選択肢としてあるだろう。

◎やりすぎのデザイン。橋や道路は「図」であるべき。

◎正直言って少々やりすぎではないか？

たなばた というのはやはり、一年に一度、より明確に意識して初めて意味がある。言わば、時間軸の文化デザインというところに意義があると思います。ですから、それをここまで毎日、毎日という形で演出するとうのはハードなデザインによる文化の搾取、という感じがします。

また、ディテールですが、床面に川のようなイメージに、というのも幼稚な感じがするのです。

◎光ファイバー天の川七夕の物語り等々アイデアが散りばめられているが、装飾だけの話しのような気がします。橋本体の構造の美がもっと重要視される方がよい。

◎物語性はよいが、それをリアルに具体的に出し過ぎるとくどくなる。象徴的のところを抑える方がよいデザインになるケースが多い。

◎樹脂コーティングについてのメリット・デメリットについてもっと話しを聞いたかった。

↑

コーティングの寿命メンテ上の問題など。

◎デザインがくどい。

## 7. 大成建設(株)

◎都市環境デザインの基礎を自然との共生に置くことに同感。

◎ゼネコンの積極的な取組みに力強さを感じました。

◎すばらしい研究成果をぜひ社内全体のストックとして活用し、実現して欲しい。

◎論理的に明快、納得できるプロジェクト提案と思う。大規模開発などで充分実現できる機会はある。

だが、しかし、既存の救いがたい市街地は地上げ屋の登場によらなければ理想は実現できないのだろうか。

日本が見捨てて来たものの大きさをつくづく感じる昨今であり、これからの若い世代がそれらをどれだけディベロップメントできるのかが課題である。

ベルリンの壁だって崩壊したのだから、夢を持ち手をたずさえてやって行きたいものだ。(それが都市環境デザイン会議ということだろう。)

◎コンセプトは良い。

◎エコポリスづくりとして評価。



## 8. (株) 竹中工務店

- ◎私有地・私有建物の公共性を認識することが都市環境デザインの原点ともいえ  
そうで、このような取組みが常識になることがひとつの目標といえるでしょう。
- ◎都会的デザインとして優れた実績があると評価します。今後は、地域性を考え  
オールジャパンでない建築・公共空間デザインの開発を期待したい。
- ◎民地におけるアーバンデザインが最も遅れている概念だろう。  
都市デザインは公共空間において公共が整備を行うものと考えている国民が大  
多数であろう。自分だってつい何年前まではそう思っていたのではないか。  
国民の意識を変えるためにも“都市環境デザイン会議”の活動を活性化させたい  
と思う。
- ◎少しずつひろげていってほしい。
- ◎「図」づくりから「地」まで含めた「地図」づくりへ
- ◎都市の中の魅力的な「道」のバリエーションの開発に期待したい。
- ◎新しい都市空間の創出・開発につながる。
- ◎民地内の空間デザインを公共空間にも及ぼすよう、なお一層の努力を期待した  
い。
- ◎例えば、公共空間にも使われ易いデザイン材料とすることなどからはじめて、  
公的機関との連携のあり方等のソフトも含めて。
- ◎「道路は文化を創る」まさにその通りだと思います。私も以前「響きとしての  
まちなみ」という切り口からそうした調査、提言をしたのですが、そのときに  
重要な要素となりましたのは、人々の活動そのものです。  
ですから、ハードなうつわ …………… 入れもの、だけではなく、それをどのよう  
に運用していくか その活用面の道路管理面での法的システム etc. について  
も考えていきたいものですが …………… 。  
これはむしろ建設省に申し上げるべきでしょうが。
- ◎これの事例について簡単な便覧が欲しいと思います。  
今後社員が多数、都市環境デザイン会議に入会されることを期待します。
- ◎デザインが冷たい。
- ◎通り過ぎる「道」ではあるが、人間が溜まる場がない。
- ◎建築と街路、躯体設計のデザイン上のノウハウやストックを主目的にして下さ  
い。



## 9. 東京ガス(株)

- ◎都市の時代は24時間都市の方向に向かっているので、灯を楽しむことは必要である。一方、環境保全からエネルギーの節約やリサイクルの必要性が強まると考えられるが、この点からの検討が気になります。
- ◎建築家・デザイナー・コンサルタント等への御社の技術やガス活用例などの情報、ガスの特性や環境にやさしい使い方等の基礎的知識も伝えてほしい。
- ◎昨今ガス灯ブームで、どこを見ても明治維新の再来かと思われるほどです。たぶん今のは文明開化ではなく、文化開化なのでしょう。と言いながらも私自身、その流れから逃げられない！  
ただ、その後を考えると、その辺の批評は終わらした方が生産的と思う。  
自分達の文化を作るため、お互い努力をしようではありませんか？
- ◎素材は面白い。
- ◎演出をしたことがないので欠点がわからない。試みてみたい。
- ◎技術資料がほしい。
- ◎一般の造形物導入と同様にとらえたい。
- ◎ガス灯はどうでもよいように思う。 ┌ 動く要素として面白い。
- ◎1. 暖かさ くつろぎ  
2. YES  
3. YES  
4. 記憶にない  
5. とくに思い当らず  
6. 日本の他都市にくらべれば多いか。ただし都市部のみか  
7. 東京ではない  
8. YES  
9. よいと思う  
10. NO
- ◎ Designer との連携を進め、さらに Gas Artを都市の中に多く設置して欲しい。
- ◎器具、特にガスの噴射口のデザインに取り組む必要あり。
- ◎「質問にあった火の熱の件ですが、使い方によっては、大成さんの提案にあったエコインフラの形成のためのひとつの手法(手段)としても活用できるはずだと思います」。
- ◎ガスのアートは今までたくさん見て来ました。  
具体的にやってみたいとも思っています。  
ガス灯等が単なる懐古趣味、流行だけでなく物性、環境への影響等をしっかり

とらえて欲しいと思います。

◎ガス灯でどの位の明るさが得られるのか教えて下さい。

## 10. 東芝ライテック(株)

◎24時間都市に向って、ライティングは重みを持っていくと思います。

いかに多様性に対応するかが課題となると思います。

◎ハイウェイ灯や防犯灯など世の中に数多く普及している照明のデザイン試作（パースによる提案でもよい）やPRによって全体的にレベルアップしてほしい。

◎色ガラスによるLEDの発色のバリエーションをふやすなどの研究を期待したい。

◎器具そのもののデザインと共に、それが置かれる環境についての議論が必要なのだろう。

◎より良いスタンダードに対する期待は大きいですが、なかなかないですね。高さ、大きさ、照明方式、明るさなど基本が満たされた単純なスタンダードの開発を望みます。でも、その時はいろいろな立場の人の意見を聞きながらやって下さい。デザイナーの優秀さを示すのが商品の開発の目的ではないのですから。

◎デザインに力が入ってきているのはよい。

長期的に取り組んでほしい。

◎長持ちする商品、評価の高い定番を作って欲しい。

◎環境では、照明、器具の前に蔭、影←→光の関係が気になる。

◎ Styling Design と Story Design とを区別して考える姿勢はよいと思います。

◎ただし、現実にできているものが、すこし安っぽいものが多く、若干金がかかっても、本物に近いもの、重厚なものをたくさん作るべき。

◎REDは使いすぎるとうるさくなる。

紹介のなかで公共空間はフセてあり、あまり目立ってはいけない。

◎とても良い課題提供でした！

◎よい製品ができています。もっと期待したいと思います。

デザイナーは「選ぶ」と「つくる」という行為があります。今後よい既製品ができれば選ぶことになるでしょう。

◎9つのエリア分け…………… { おし着せにならない注意が必要。  
金太郎アメ

◎ザックバランで、内容もあるよい発表でした。

## 4. J U D I への要望・意見

◎大変有意義でした。よい展開があるように思います。

◎事務局への疑問多数有。

└─ というより、幹事さん達へか？

私としては“都市デザイン”という概念を社会に訴える行動の場として、また、底辺の拡大なども望み参加を決意したが、現状は、ややクラブ的で、社会に開かれた組織というイメージがない。底辺が拡大していくことを考えると、会員の2名の推薦が必要というのは何なのだろう。異業種の人々はさぞ参加しづらかろう。また、発足から1年程たってから会の存在を知らされた。最初の呼びかけが何となく同窓会的とのイメージが残る。若い人々もほとんど知らないのは何故だろう。などなど？はつきないが、それは私自身会員としてどの様に活動を起こしていくかということにもつながっており、後から来た人達のことも考えて、その辺の話しができる資料を整えて置いて欲しいものです。

◎J U D I への意見

都市環境デザイン会議ができたからこそ可能になったといったプロジェクトをすすめていくべきだと思います。

具体的には、大成の並木さんの提案などを会議全体で取り上げ、テーマとしていくのが良い……………それこそ、J U D I ならではのテーマかと思いました。

いずれにせよ、プレメッセの企画はとても良かったです。

私自身としても、J U D I に入った意義を実感した充実した一日でした。

以上、このアンケート用紙すべて、聞きながら書きましたので乱筆乱文になってしまい申し訳ありません！ 鳥越 けい子

P.S. 個人的要望ですが、「デザイン」という用語そのものについてのディスカッションなども、テーマとしてとりあげてはどうでしょうか。

(あるいはそれについて社会においてどのように運用されているかについての調査とか。)

## 5. 事務局の反省と課題

都市環境デザイン会議（J I D I）の主催による「都市環境デザインモニタープレメッセ」の事務局を担当させていただき、感じた事項を列挙します。

建設省が平成3年8月に発表した平成4年度重点施策によりますと、都市対策の推進の中で、都市・建築景観等の確保を挙げています。

それは、良好な都市景観の形成を図るため、都市空間の色彩についての計画策定を行うことによる色彩に配慮した美しいまちづくりや、コンピュータグラフィクス等を用いた都市景観情報システムの推進等の都市景観施策を推進する。

また、良好な市街地における建築景観の形成を図るため、建築協定等の積極的な活用、建築物の屋上等における緑地等整備の推進を図るとともに、都市環境デザインに関する情報の普及等により、景観に対する社会の意識向上等を推進する。

さらに、既存官庁施設において、緑化、景観照明、モニュメントの設置等を推進することにより、魅力ある都市空間の創出を図ることとしています。

今後豊かさと潤いのある生活実感が持てるような都市形成を目指すためには、環境デザインの重要性は高まる一方であると考えられます。

潤いと豊かさを感じられる都市環境を目指して、色々な分野の方々が知恵を出し合い、研究し、議論する中から、これまで見向きもされなかった事柄が重要な意味を持ち始めたり、国や地方公共団体も積極的に関与せざるを得なくなって、知らず知らずに環境が改善されていく——そんな役割をJ U D Iが担っているような感じを受けました。

プレメッセにつきましては、準備期間が短かく出展企業の方々やモニターの皆様へ趣旨徹底が図れず、ご迷惑をおかけいたしましたことは誠に申し訳なく、深く反省するとともに陳謝いたします。

### 「反省点と課題」

1. プレゼン並びにモニターの意見開陳時間が少なすぎた。  
プレゼンは最低1社20分、モニターも4～5人発言で20分程度は必要。
2. 行政側のモニターが少なかった。
3. 予めテーマ設定の必要があった。
4. 準備期間は7～8カ月必要である。
5. 会場の選定も早期に行う必要がある。
6. 初の試みでありクローズドシステムで実施したが、次回からはオープンシステムでもよいと感じた。

7. 学会方式で全体+分科会のような形にすればより効果が大きくなると感じた。

「評 価」

1. 準備期間が短かった割には、大手ゼネコン、大手メーカーであったため、質的に高度な注目に値するプレゼンがなされ、モニターを感心させました。
2. モニターが鋭い切り口でゼネコンやメーカーに改善や発想の転換を迫り、出展企業も予想以上の効果だったと喜んで下さいました。

以 上



スライドに質問するモニター諸氏